

# 擬態語動詞「あっさりする」の意味分析

陳 帥

キーワード 「あっさりする」 擬態語動詞 意味 意味拡張

## 1. はじめに

「あっさり」は、オノマトペと位置づけられ<sup>1</sup>、「擬態語動詞(mimetic verbs)として「擬態語+する」の形式が注目されてきた。本稿は、擬態語動詞としての「あっさりする」を取り上げ、意味分析を行う。「あっさりする」には、以下の用法が観察される。

- (1) 熱中症には気をつけているけど、夏バテは避けられない。食欲は落ちて、冷たくて、あっさりした<sup>2</sup>食べ物が増えてしまう。  
(朝日新聞2012.08.18)
- (2) 倉又監督が悩むのはそこだ。強い気持ちをどうやって植え付けるのか。そうでなくても「最近の子はあっさりしている。抜かれると『しょうがないや』とやめてしまう」という傾向がある中で…。  
(中日新聞2010.11.06)
- (3) 岸田の静物画は、北方ネサンスに傾倒した人らしい細密表現を見せつつ、背景はあっさりしているというのだ。(朝日新聞2012.06.13)

(1)は、「あっさりした～」という連体修飾用法で「食べ物の味」を表している。(2)は、「あっさりしている」という述語の用法で「人の性格」を表している。また、(3)も述語の用法であるが、「絵画の見た目」を表している。こういった用法からみると、「あっさりする」は、連体修飾の用法と述語の用法で複数の意味を表すことができる。本稿は、「あっさりする」を多義語<sup>3</sup>として捉え、その意味を分析する。

以下、本稿の構成について簡単に述べる。

2節では、先行研究の検討を通して本稿の課題を指摘する。3節では、本稿の立場と援用する諸概念を提示する。4節では、「あっさりする」の意味記述と各意味の関係を考察する。5節では、本稿のまとめを述べる。

## 2. 先行研究の検討

### 2.1 擬態語動詞について

影山(2005)は、「擬態語+スル」全体の意味構造は通常の動詞の語彙概念構造と実質的に同じになると主張している。また、宮地(1978)では、「ト」を伴う「トスル型」は実質動詞の場合との区別が明確にできるわけではないが、「スル」を伴う全体として(文)節相当に機能すると指摘している。本稿は、「あっさりする」の意味を分析するにあたり、「擬態語+する」を1語とし、「擬態語+とする」の形も含めて考察する。

西尾(1981)は、「擬態語動詞」の「する」の性質に広い幅があるであろうことに注目し、アスペクトの観点から4グループを取り出している。「あっさりする」は、「シテイル、シタ(連体用法のみ)の形で使われるだけであって、動的な過程を表すことがなく、単なる状態を表し、形容詞と通じる性格を持っている」としている。一方、鷺見(1996)は、「あっさりする」は、テイル形でのみ使われ、性質表現化するため、「あっさりする」のような語を<形容詞的状态><性質表現化<sup>4</sup>>動詞と分類している。

本稿は、先行研究に基づき、「あっさりする」の連体修飾用法と述語用法に注目し、考察を進める。

### 2.2 「あっさりする」の意味記述について

擬態語動詞としての「あっさりする」の意味を分析した研究論文は、管見の限りないが、複数の国語辞典、類語辞典、擬音語擬態語辞典における「あっさりする」の記述には参考にすべき点も多い。しかし、それらは辞書的意味であり、いずれも百科事典の意味を考慮に入れていない。さらに、各意味の関係について、明らかにしていない。

以下、飛田・浅田(2002)、森田(1989)の意味記述を取り上げ検討する。

まず、飛田・浅田(2002)における擬態語動詞としての「あっさりする」の記述をみる。

飛田・浅田(2002:4)

執着が少なく淡泊である様子を表す。プラスイメージの語。味、柄、性格、行為などが、対象に対する執着や刺激が少なく淡泊である様子を表す。一般に濃厚なものより淡泊なものを好む日本文化の特徴が表れている。

上の記述をみると、「味」「柄」「性格」「行為」などは、異なるカテゴリーであるものの、いずれも「執着や刺激が少ない」「淡泊」を用いて記述されている。しかし、「執着や刺激」が、それぞれのカテゴリーにおいて、どのようなものであるか、われわれにとっては、どのような経験であるかを明確にする必要がある。また、「淡泊」と「あっさりする」は、類義関係にあると思われるが、その違いについては不明瞭である。

次に、森田(1989: 60)における「あっさりする」に関する記述を取り上げる。

精神や感覚に強くいつまでも留まっていなくて、じきに解消してしまうさま。そのような状態にある主体や性質に対して用いるほか、行動の進め方の様子にも転義的に用いる。

「あっさりした+名詞」もしくは「あっさりしている」の形でそのものの状態がしつこくなく淡泊であるさま。

「あっさりした～・あっさりしている」とサ変動詞化し、「た・ている」によって状態表現となっている。形容される事物としては、「味・味付け・料理」「色・色合い・模様・柄・取り合わせ」「性格・気性・好み・人・人間」のような味覚、色彩感覚や物に執着しない性格などに用いられる。本来の程度に比べてかなり密度を落としたことによって生まれる美的感覚。

森田(1989)は、「あっさり」が「～した・している」という形で「味・料理」「柄・色」「性格・人」に用いられると述べた上で、「本来の程度に比べてかなり密度を落としたことによって生まれる美的感覚」と指摘している。しかし、必ず「本来の程度」と比べるか、また「本来の程度」がどのようなものかは更に検討する余地がある。例えば、例(4)の「和食」の「本来の程度」は「あっさり」だと思われ、「本来の程度」ではなく、「洋食」「中華」などと比べていると考えられる。いずれにせよ、「あっさりする」というと、ある対象に客観的に備わっている対象の属性(味、色など)について、知覚者が何らかの基準と比較しながら捉えている。そこで、本稿の分析によって、どのような基準と比較しているのかを明らかにしたい。

- (4) 脂っこいものは避け、あっさりとした和食が中心。夕食はバイキングのため、朝食は栄養バランスに配慮し品数を多くしているという。

(朝日新聞2010.12.11)

以上の検討をまとめると、擬態語動詞「あっさりする」の意味を明らかにするため、次の2つの課題が挙げられる。第一に、「執着や刺激がない」「淡泊」な様子は、一体どのような様子であるか。われわれにとって、どのような経験であるか。第二に、どのような基準と比較して捉えるのか。また、その基準は、何と関わっているか。この2つの課題を4節の考察を通して解決したい。

### 3. 本稿の立場と援用する諸概念

本稿における意味分析は、百科事典的意味観に基づくものである。

本稿で援用する百科事典的意味観に関する概念については舩山(2013:22-23)の定義に従う。

百科事典的意味：ある語（に相当する言語単位）の百科事典的意味とは、その語から想起される（可能性がある）知識の総体のことである。

典型例：舩山（2010）では、ある語の百科事典的意味として、慣習性、一般性、内在性、特徴性の程度が完全でないものも認める必要があると述べ、その中には、一般性について「ある語の百科事典的意味を構成する要素が、その語が表す対象（カテゴリー）のどれだけの成員にあてはまるかという程度のことである」と定義している。（舩山 2010：8）さらに、あるカテゴリーの一般性の程度が完全でない成員（下位カテゴリー）には、典型例、理想例、ステレオタイプ、顕著例があり、その中で本稿が援用する典型例について、以下のように定義している。（舩山 2013：23）

（ある言語共同体において）あるカテゴリーの中で、数多くみられ、想起しやすい一群の成員（下位カテゴリー）のこと。

また、各意味の関係を考察には、以下の概念を援用する。

共感覚的比喩：ある感覚領域を表す語が、別の感覚領域に転用される表現をいう。（甘い声 味覚→聴覚）（武藤2003:5）

メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。舩山（2010:42）

### 4. 考察

本節では、擬態語動詞「あっさりする」の「連体修飾用法」と「述語用法」の4つの多義的別義を認め、記述する。以下、例文に基づき説明する。

別義1<飲食物の味が><その飲食物の味の典型例と比べて><抑えられて>  
<好ましい><と感じられるさま>

- (5) 熊本産クリを使ったモンブランなど4種類で、いずれも砂糖やクリームをほとんど使わず、あっさりとした味わい。

(毎日新聞2013.07.13)

- (6) 焼き上がった餃子は、細かく刻まれた名古屋かまぼこの鮮やかな朱色の縁が透けて見える。ほかの具材はエビや豆腐、はんぺん、タマネギ、ニラなどで、肉は一切使わない。あっさりしており、カロリーを抑えたヘルシーさを売り物にする。

(毎日新聞2012.04.11)

(5)では、「あっさりとした」によって「モンブラン」の味を表している。「モンブラン」といえば、日常的経験から、一般的に「甘い」「濃厚」なイメージである。このような「甘い」「濃厚」なイメージは、「モンブランの味」というカテゴリの中で、数多くみられ、想起しやすいものである。それは、本稿でいう「典型例」である。また、「砂糖やクリームをほとんど使わず」ということから、その「甘い」「濃厚」な「典型例」と比べれば、「甘さ」「濃厚さ」が抑えられているということがわかる。したがって、「モンブラン」の「あっさりとした味わい」というのは、「甘い」「濃厚」な味と比べ、抑えられている味である。

(6)では、「あっさりしている」が「焼き餃子の味」を表している。「焼き餃子」を食べたことがある人は、一般的に中身が肉であることが多く、多少脂っこいイメージを持っているのではないだろうか。中身が肉である「餃子の味」は、「焼き餃子の味」というカテゴリの中で、数多くみられ、想起しやすいと思われる。それは「焼き餃子の味の典型例」だといえる。「肉は一切使わない」ということから、「脂っこさ」を避けたとわかり、「焼き餃子の味の典型例」と比べれば、話題の焼き餃子の味は、抑えられている味である。

以上の例をみると、「飲食物の味」について、先行研究でいう「しつこくない」「淡泊である」というのは、「甘さ、塩分、脂っこさ」といったものが抑えられているさまであるが、もちろん、そういったものだけに限らない。日本人はこのような「甘すぎない」「脂っこくない」「しつこくない」ものを好み、「あっさりとした味」が好ましいと考えていると思われる。

別義2<物の外見が><その物の典型例と比べて><抑えられている><と感じられるさま>

- (7) 半分に裂かれたその写真に、相手の男の姿はない。けれど肩にかかった指は長く、しっかりと守るように、女を抱いていた。そしてその薬指には、金かプラチナのごくあっさりとしたデザインの、結婚指輪がはまっていた。 (BCCWJ)
- (8) 鉄板葺き煉瓦造りのこのチャペルは、飾り気のない「アメリカン・ゴシック」スタイルの美しい建物である。あっさりとした、ゴシックデザインはプロテスタント系の礼拝堂にふさわしく簡素な意匠構成となっている。 (毎日新聞 2010.10.22)

(7)では、「あっさりとした」は、「結婚指輪のデザイン」を表している。日常的経験から、「結婚指輪」に対するイメージは、「宝石や凝った装飾のある派手なもの」が数多くみられ、想起しやすいと考えられる。そういったものは、「結婚指輪」というカテゴリーの中の「典型例」だといえる。「金かプラチナ」から見ると、この指輪は、あまり装飾されておらず、視覚的に刺激がないと思われる。つまり、「しつこくない」「刺激がない」「淡泊である」様子は、視覚で捉えられる範囲では、あまり装飾や派手さがなくさまであり、外見が抑えられているといえる。

(8)では、「チャペルのデザイン」についてであるが、「チャペル」のような欧米風の建築に対して、豪華で派手なものが想起しやすいと考えられる。それは、「チャペル」というカテゴリーの中の「典型例」だといえる。だが、「飾り気のない」「簡素な意匠構成」などから見ると、この「チャペル」は、「典型例」と比べ、あまり「豪華ではない」「派手ではない」とわかり、外見の全体が抑えられているといえる。

以上の例をみると、「物の外見」における「淡泊である」「しつこくない」「刺激がない」様子は、あまり飾りがなく、単純である外見が抑えられている様子といえる。

別義3 <人の言動が><その場の言動の典型例と比べて><抑えられている><と感じられるさま>

- (9) 将棋界に若手が台頭し始めたころ、大山に「若手は強くなっているんですか」と問うた。返事はあっさりしていた。(中略) — 「若い者が強いのは当たり前なんです。問題はそれをいかに持続させるかです…」。  
ちなみに大山は25歳でA級八段になっている。すごかったのは、こ

れを半世紀近くも持続させたことである。 (毎日新聞1997.02.04)

- (10) 今年3月末、陽介さんは東京駅の新幹線ホームにいた。恋人の香奈さんを見送るためだった。念願の女子アナウンサーになることが決まり、4月から遠く離れた地方のテレビ局で働く。「頑張ってるね」「うん、頑張るね」。熱い抱擁もない、あっさりとした別れ。

(毎日新聞 2012.07.24)

(9)では、「返事はあっさりしていた」とあるが、大山さんは、将棋界のベテラン選手であり、若者を評価したりするのが普通であると思われる。それは、日常の経験の中では、数多く、想起しやすい典型例である。だが、単に「若い者が強いのは当たり前なんですよ…」という返事からみると、傍観者的で物事に対する執着度が抑えられていると感じられる。

(10)では、「あっさりした別れ」とあるが、恋人が別れる場合であれば、「別れたくない」「いろいろ話したい」場面が想定しやすい。それは、恋人が別れる場面というカテゴリーの中では、数多く、想起しやすい典型例である。だが、「熱い抱擁もない」ということから、「別れたくない」といった「典型的な言動」と異なり、執着度が抑えられていると感じられる。

さらに、以下の例(11)をみると、実際に「言動」はなされていないが、同じ言動が何度も繰り返されれば次第にその人の習慣になり、その場合には、「人の性格」となることがわかる。

- (11) 倉又監督が悩むのはそこだ。強い気持ちをどうやって植え付けるのか。そうでなくても「最近の子はあっさりしている。抜かれると『しょうがないや』とやめてしまう」という傾向がある中で…。 (同(2))

(11)のように、「抜かれると『しょうがないや』とやめてしまう」ことを何度も繰り返せば、人はこのような印象を受けやすく、そのような「性格」であると考えられる。(11)をみると、「スポーツ選手」に対して「勝ちたいや負けたくない」という強い気持ちが想起しやすいと思われる。そういったイメージは、「スポーツ選手」というカテゴリーの中での典型例である。そういった「典型例」と比べ、「最近の子」は、「強い気持ち」を持たず、控えめな性格であるといえる。

「人の言動」「人の性格」における「しつこくない」「こだわらない」「淡泊である」というのは、人の物事に対する関心度や執着度が抑えられているさまの

ことであると考えられる。

**別義4 <物事の内容が><その物事の内容の典型例と比べて><抑えられている><と感じられるさま>**

(12)普通、「猫の本」は、いかに猫が可愛いかわかり、いかに猫を愛しているかを過剰に語った、べたべたしたものが多いのだが、この絵本は違う。実にあっさりしている。  
(毎日新聞1996.10.28)

(13)あの日、私は社会部で夕刊デスクをしていました。尼崎の福知山線で列車が横転してけが人が出ている。一報は、確かこんなあっさりした内容でした。  
(中日新聞2005.11.15)

(12)からわかるように、普通の「猫の本」の内容は、「猫の可愛さを過剰に語り、べたべたしたもの」が多い。それは、「猫の本」というカテゴリーの中で、数多く、想起しやすい「典型例」である。だが、この絵本は、そうではなく、「べたべたした典型例」と比べ、「過剰な叙述」がなく、抑えられている。

(13)では、「事故の情報」についてであるが、「事故の情報」には、普通は「時間、場所、原因、被害の大きさ」などの細かい情報が含まれていると考えられる。それは、「事故情報」というカテゴリーの中で、数多く、想起しやすい「典型例」である。だが、ここでの「一報」は、その「典型例」と比べ、「被害の大きさ」などもなく、抑えられている。

したがって、「物事の内容」における「しつこくない」「淡泊である」というのは、「物事の内容」に関する叙述や説明が抑えられており、「簡潔である」ことだといえる。この意味については、従来の意味記述や先行研究では、ほとんど触れられていないが、広く実例を観察すると、数多く存在しており、別義の1、2、3とは異なる意味であると思われるため、別義として立てた。

以下、「あっさりする」の4つの別義を再掲し、別義の相互関係をまとめて提示する。

**別義1 <飲食物の味が><その飲食物の味の典型例と比べて><抑えられて><好ましい><と感じられるさま>**

**別義2 <物の外見が><その物の典型例と比べて><抑えられている><と感じられるさま>**

**別義3 <人の言動が><その場の言動の典型例と比べて><抑えられている><と感じられるさま>**

別義4<物事の内容が><その物事の内容の典型例と比べて><抑えられている><と感じられるさま>

その中で、「味覚」で捉える別義1は、「機能的中心性」<sup>5</sup>を持っている。したがって、本稿は、暫定的に別義1を基本義とする<sup>67</sup>。

別義1により、「物の外見」「人間の言動」「物事の内容」へ拡張する<sup>8</sup>。「味が抑えられている」により、「過剰な飾りが抑えられている」「過剰な関心が抑えられている」「過剰な説明が抑えられている」への拡張は、「過剰なものが抑えられている」という類似性を持っていると考えられる。したがって、メタファーによる拡張である。また、別義1と別義2は、それぞれ味覚、視覚で捉えるため、「共感覚的比喩」として考えられる。つまり、「あっさりした味」というと、「あっさりした色」が自然に思い浮かべられる。

## 5. 終わりに

本稿では、擬態語動詞としての「あっさりする」の「連体修飾用法」と「述語用法」に注目し、その意味を分析した。「あっさりする」について、多義語として、4つの多義的別義を認定し、記述した。さらに、4つの別義の相互関係を考えた。今後は、「あっさりする」の用法だけではなく、「あっさり」を多義語として捉え、副詞用法を含めて考察し、各意味用法の関係を明らかにしたい。

## 注

- 1 オノマトペ、擬音語・擬態語とはどういうものであるかについて、その定義は研究者により見解が異なるが、天沼(1974)、浅野(1978)、山口(2003)、小野(2007)などの擬音語・擬態語辞典において、「あっさり」が掲載されていることから判断した。
- 2 実例中、分析対象には下線を施した。実例の出典は例文の後ろの()に示し、出典が記されていないものはすべて作例である。
- 3 国広(1982:97)は、多義語を「同一の音形に、意味的には何らかの関連を持つふたつ以上の意味が結び付いている語」と定義している。
- 4 鷲見(1996)によると、「性質表現化する動詞」は、「主体の特徴を表現する語として使うことができる」のである。例えば、「～は一テイル」と「～は一タ人だ」を同じ状況で使うことができる。(ふける、ばかげる)

- 5 松本(2009)は、中心的意味には「概念的中心性」と「機能的中心性」の2つの中心性があり、この両方を併せ持った意味が、典型的な中心的意味であると主張し、両者が一致しない場合もあることを指摘している。概念的な中心性を持つ意味：「派生の元をたどっていったときに、最終的に行き当たる意味」である。(p.90) 機能的中心性を持つ意味：「中立的な文脈である語を聞いたときに話者が最初に思いつく意味であり、その語の使用例として最初に口をついてでる意味」である。(p.92)
- 6 「あっさり」について、『日本国語大辞典』によると、「浅し」に由来するとしている。「浅し」であれば、単に「味」を表すのではないと思われる。一方、日本語母語話者の直感によれば、最初に思いつく意味として「味」である。本稿では、「あっさりやめた」のような副詞的用法を考察対象としないため、「味」を表す意味を「機能的中心性」を持つと考える。
- 7 初山(2001:32)が提案している4つの課題として「(それぞれ確立した)複数の意味の認定」、「プロトタイプの意味の認定」「複数の意味の相互関係の明示」「複数の意味すべてを統括するモデル・枠組みの解明」である。
- 8 山梨(1995)は、感覚領域の転用に一定の方向性があることをさらに発展させ、共感覚的比喩表現に関して感覚領域の転用の方向性をまとめた。一方向性の仮説によれば、「あっさり」の意味拡張は、別義2の「視覚」から「別義1」の「味覚」へ拡張したことになる。一方、瀬戸(2003)は、仮説に合致しない多くの日本語の共感覚比喩表現の一方向仮説の反例が挙げられている。そこで、本稿で主張する別義1から別義2への拡張は、一方向性仮説の例外であるのか、一方向性に反するものと捉えるのか、あるいは一方向性とは無関係と捉えるのか、さらに詳しく検討する必要がある。

## 参考文献

- 浅野鶴子編、金田一春彦解説 (1978) 『擬音語・擬態語辞典』角川書店  
 阿刀田稔子・星野和子 (1995) 『擬音語・擬態語使い方辞典：正しい意味と用法がすぐわかる』創拓社  
 影山太郎 (2005) 「擬態語動詞の語彙概念構造」、『第2回中日理論言語学研究会』、ハンドアウト：1-9  
 国広哲弥 (1982) 『意味論の方法』大修館書店  
 国広哲弥 (1998) 『理想の国語辞典』大修館書店  
 柴田武・山田進(2002) 『類語大辞典』

- 鷺見幸美 (1996) 「「擬音語・擬態語＋する」動詞の分類」『名屋  
大学人文科学研究』25 名古屋大学大学院文学研究科 pp.97-120
- 天沼寧編 (1974) 『擬音語・擬態語辞典』東京堂出版
- 西尾寅弥 (1981) 「(擬音語・擬態語＋する)の形式について」『語学と文化』  
20 pp.83-96
- 飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』東京堂出版
- 松本曜 (2009) 「多義語における中心的意味とその典型性：概念的  
中心性と機能的中心性」Sophia Linguistica 57, 89-99. Sophis Linguistic  
Institute for International Communication.
- 松村明 (2006) 『大辞林 第三版』三省堂
- 宮地裕 (1978) 「擬音語・擬態語の形態論小考」『国語学』115 : 33-39  
国語学会
- 舩山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』研究社
- 舩山洋介 (2010) 「百科事典的意味観」、山梨正明他編『認知意味論考』  
No.9 pp.1-37 ひつじ書房
- 舩山洋介 (2013) 「百科事典的意味における一般性が不完全な意味の  
重要性」『日本認知言語学会第14回大会予稿集』pp.22-23
- 森田良行 (1989) 『基礎日本語辞典』角川書店
- 武藤彩加 (2003) 『日本語の共感覚比喻に関する記述的研究』博士学  
位論文 名古屋大学
- 山梨正明 (1995) 『認知文法論』ひつじ書房
- George Lakoff (1987) Women, fire and dangerous things: What categories  
reveal about the mind. Chicago: University of Chicago Press. (1993『認  
知意味論』池上嘉彦 河上誓作他訳, 紀伊国屋書店, 1991)

## 例文出典

毎日新聞記事データサービス

中日新聞記事データサービス

KOTONOHA 『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)